



天使

発行

天使大学 広報委員会

〒065-0013

札幌市東区北13条東3丁目

TEL 011-741-1051(代)

FAX 011-741-1077

http://www.tenshi.ac.jp

栄養学科カリキュラム改訂

栄養学科教授 小林 則子

「管理栄養士学校指定規則」の一部改正が平成14年4月1日より施行されます。栄養学科では、カリキュラムの改訂作業を進め、申請手続きを済ませました。大学として完成年度（平成16年度）を待たずの改訂作業は、専任教員はその担当科目について改めて教員審査を受けなければならない等の手続きがあり、教員にとっても、関連部署のスタッフにとってもなかなか大変な作業でした。

今回の改正は、平成12年3月「栄養士法」の改正で、それまで「複雑又は困難な栄養の指導」とあいまいな表現をされていた管理栄養士の業務が「傷病者に対する療養のために必要な栄養の指導」「個人の身体状況、栄養状態等に応じた高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導」「特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体状況、栄養状態、利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導」等と明文化されたことによります。これを受けて、高度な専門的知識及び技術を持った、資質の高い管理栄養士の養成を図るためのカリキュラム改訂です。「専門基礎分野」では「社会・環境（人間や生活）と健康」「人体構造と機能、疾病の成り立ち」「食べ物と健康」を、「専門分野」では「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」を教育内容とし、さらに専門分野を横断した能力の育成のための「総合演習」、実践力を養うための「臨地実習」の充実が図られました。

管理栄養士の業務内容が明文化されたのを受け、多くの栄養士養成校が4年制大学への移行を計画しているとのこと。本学は天使病院との連携協力を得られることの利点を踏まえ、臨床分野でその特徴を出していきますが、その前に天使の校風として培われてきた人間愛を持った専門職者養成の教育を大切にしていきたいと思っています。（栄養学科教務委員）

天使大学初めての戴帽式

看護学科助手 井上 由紀子

大学として初めての戴帽式が、去る10月5日に行われました。看護学科2年生86名全員が、出席された御来賓、父母そして在学生、教職員の前で戴帽の儀を終えることができました。

近年、臨床現場においては、感染や機能性の面からナースキャップが廃止の傾向にあります。しかし、本学の看護教育において、ナースキャップを戴くという戴帽式には学生にとって4年間の学びのプロセスの中で、ひとつの大きな節目としての意義があります。それは、一人ひとりの学生がこれまで2年間の学びを振り返ると共に初めての臨床実習を前にして看護という専門職の道を歩む気持ちを新たにできる機会となるからです。式に先立ち行った修養会では86名の学生が更に交流を深め、神父様やシスターのお話では「生命の尊さ」と「看護職の奥深さと責任」を考えさせられました。学生たちは、過密なスケジュールの中、誓いの言葉を皆で考え、看護の精神を受け継ぐために戴帽の歌や歩き方から座り方まで練習を積み重ねました。この戴帽式への準備を通して学生たちは不安、戸惑いの中にも喜び、希望そして新たな決意を抱いたことでしょう。

戴帽式当日は、はじめに北11条教会で全員が心合わせて祈りました。神父様から「皆さんの素敵な笑顔で患者さんの心を癒し、希望を与えてください。」という大きな励ましの言葉を戴きました。式では緊張の中一人ひとりが学長よりキャップを戴き喜びをかみしめていました。練習の成果を発揮し、美しいハーモニーで戴帽の歌を歌い、心ひとつに誓いの言葉を述べました。上級生の祝辞では涙している学生が何人もいました。同じ道を歩んできた先輩の言葉は実感として心に響いたのでした。

今後、様々な困難に出会っても、この日の誓いと感動を思い起こし歩いていってほしいです。♪天使に学びて受け継ぐともしびりがいつまでも…と願います。

(看護学科2年担任)



COLUMN 雛まつりのこと

本学が女子短大だった10数年前から、3月が近づくと教職員たちの手で大きなお雛様が飾られるようになりました。贈り主は、栄養学科のK先生。「娘が大きくなって、家では飾らなくなったので」とのこと。毎年しまっておく場所がわからなくなるとは、学校中を捜し回るところから始まります。今はなくなりましたが、5号館の浴室にしまっておいた時は「お雛様、お風呂に入っていたわ〜」と、見つけた途端大笑いでした。

いつの間にか、あられやひし餅を供える人（そう言えば、カキモチやお団子が並んでいる時も...）。それを通りすがりにつまんでいく人。立ち止まって「このおじいさんは誰だ」と語り合う人。カメラを持参してきて、その辺を歩いている人も巻き込んで記念撮影するグループ。子どもの頃はそれぞれの家庭で祝われていた女の子の行事が、今は天使の大切なイベントになっています。（S.Y.）



授業紹介① 教養教育科目

生物学

教養教育科教 片桐 千明



地球上には実にさまざまな生物がさまざまな様式で生息しており、ヒトという生きものもそのひとつに過ぎません。事実、医療や産業の分野で近年日常的に登場する生命や遺伝子を操作する技術

は、遺伝と細胞の働きのしくみをバクテリアから高等な動植物に至るあらゆる生物に共通のルールに基づいて理解することを可能にした生命科学の成果によるものといえましょう。しかし一方で、それは従来考えられなかった新たな社会的あるいは倫理的問題を提起しています。

この授業では、一般教養としての側面と同時に本学での専門課程での学習のための基礎にもなることを考慮して、細胞の働きとそれを支える分子に関する現代的理解がどのようにしてもたらされたかをできる限り具体的な事例に即して学びます。それを通じて、自然における生きものとしてのヒトを的確に把握する眼を養うことを目指します。

授業紹介② 栄養学科専門科目

栄養学総論Ⅰ・Ⅱ 栄養学各論Ⅰ・Ⅱ

栄養学科助教 勝野由美子



栄養学を学ぶには、幅広い知識を必要とします。栄養学は、古代ギリシャ時代は医学と一緒でした。ヒポクラテスはその学問の祖です。彼は病気の治療に際して病気の回復に「好ましい食物」と「好ましくない食物」の考え方を

示し、生体の機能と摂取食物の間に密接な関係が存在することに目を向け、今日の食事療法の根幹を示しました。

現在の栄養学の授業は、栄養学総論Ⅰ、Ⅱ、栄養学各論Ⅰ、Ⅱと4つの講義に分かれています。まず、栄養学総論Ⅰで人間を含む生物は外界から通常食物として栄養素を取り入れ、それらを代謝して生命を維持し、個体としての機能的・形態的恒常性の維持、成長、生殖、身体活動などの生活現象を営むことを理解することを目的として学びます。そのためには、生化学、生理学・解剖学（生物学）などの知識が基礎となります。栄養学総論Ⅱではエネルギー所要量の算定方法を学びます。基礎代謝とエネルギー代謝について理解していきます。その基礎となるのが食品学です。各栄養素の所要量についても理解していきます。栄養学各論Ⅰでは栄養学総論を基礎にして、人の一生をライフステージ別に学び、各期（例えば乳

児期、成人期など）における適切な栄養について具体的に学びます。この時、生理学・解剖学（生物学）の知識は必要欠くべからずです。栄養学各論Ⅱでは労働、スポーツ、異常環境下（寒冷、高圧、騒音など）での健康維持と栄養との関連について学び、どちらかという、スポーツ栄養、臨床栄養、公衆栄養などの学問の基礎となる分野です。

来年度からの新カリキュラムでは単位数も増え、名称も変わります。しかし、基本は変わりなく上記に書いたことです。でも、学問は進歩していきます。少しでも新しい知識を提供していきたいと思っています。

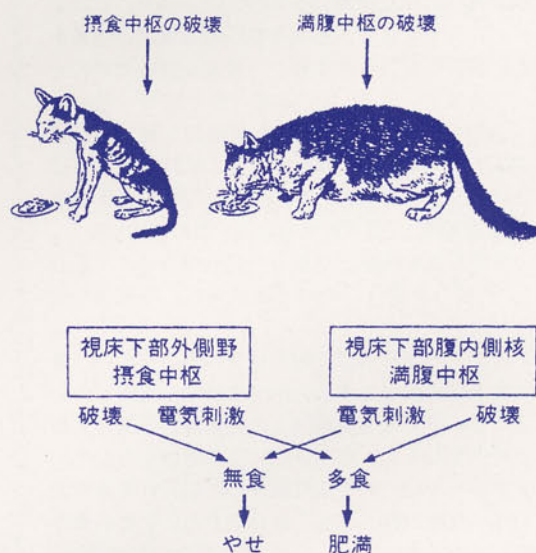


図 摂食行動に及ぼす効果
(大村・喜多『代謝』16巻78頁、1978年より)

学 事 暦

(2001年度後期)

9月10日 後期授業開始
10月5日 戴帽式(看護学科2年)
11月2日～3日 天使祭
11月17日 推薦入学試験、社会人入学試験
12月8日 創立記念日
12月15日 編入学試験

12月20日
12月25日～
1月19日～20日
1月28日～
2月6日・7日・14日
3月14日
3月15日

クリスマスの集い、学生総会
冬期休暇
大学入試センター試験
後期定期試験
一般入学試験
卒業ミサ
卒業式

授業紹介③ 看護学科専門科目

健康生活看護学Ⅱ(地域看護学)

看護学科講師 吉田 礼維子



人間本来の生活の場である地域で誰もが生き生きと暮らすことができるように、看護には住民の「健康」と「生活」を支える役割があります。地域看護では、あらゆる健康レベルにある個人、家族、

集団にかかわり、地域全体の健康のレベルアップに向けた援助を展開していきます。

健康生活看護学Ⅱは、地域看護学に該当する科目で、2つの講義科目と実習があります。2年次に展開するⅡ-1では、総論に続き地域看護の一領域である在宅看護について学び、3年前期のⅡ-2では、保健師が行う地域全体への看護活動を学び、3年後期に実習が入ります。

平成13年度はⅡ-1を開講しましたが、その一部の在宅看護実習では、家庭で病気や障害をもって生活している方への

訪問看護の学習を行いました。はじめに段階的に提供される事例の情報を用いて、訪問した家庭で、在宅で療養されている方や家族の方にどのように関心を向けて、看護に必要な情報を収集・判断していくのかを考え、自分たちの探求心に基づき対象理解や援助に必要な学習を進めます。事例への訪問看護で必要な援助、疾病や障害を持ちながら地域で過ごすことの意味などについて討議をして、続く技術演習の中では、訪問場面での観察や情報収集、移動や排泄、清潔などの看護援助の練習をしていきます。

訪問看護では、在宅療養をされている方の状態はもちろん、家族の状況や住環境により看護援助の方法が変わってきますので、学生は戸惑いますが、基礎看護技術で学んだ原理・原則を想起しながら、創意工夫する難しさや楽しさを学んでいます。また、相互に在宅療養者役、家族役、看護者役を体験することで、障害をもって生活することの不自由さや、介護と家族の健康や生活との関連を考えることができ、看護者として、安全・安楽な援助、在宅療養者や家族が大切にしていることや持っている能力を尊重した援助、コミュニケーションのあり方を学んでいます。



学生課近況

学生課長 内山 昌子

話合い大作戦、その後

ゴミ問題を発端として始めた学生との話し合い。行事の準備などで中断したが続けて良かった。理由のひとつは、学生が自己主張するようになった事。こちらから話す事に「はいはい」では張り合いがない。「それは違うくらい言ってよ」が効を奏し、「もっと効率的な話し合いにして」「司会は学生に」など等。よくぞ言ってくれた。ただ、この場はあくまでもお互いを理解するための手段(理解する事の困難さを知り、だからこそ話合う)であることの認識に欠けていたと反省(サルと言われないよう司会は直ぐ交代)。ゴミについては以前より改善されていると学生は報告している。更に徹底させるには、教員の協力を得て、「ひと声運動」で徹底を図るのも確実な方法かと考える。授業の前か後で「あなたの周りをご覧下さい」または、直接「ゴミは落ちていませんか」。毎年、前期に新入生に対してひと声掛けて(身辺を清潔にする習慣をつける意味で)いただければ...。と提案したいのだが。

創立記念日

天使祭が終了し、ほっとした気持ちで参加した学生相

談学会から帰ると、創立記念日は目前。慌てて、去年記録に撮っておいた写真を参考に、第3回として本学の歩みの一部を、掲示した。今回は、建学の精神「愛をとおりて真理へ」が、どんな経緯で言われるようになったかの文章を追加した。

掲示の前で、「外国人が学長だったの……」「これ〇〇先生の若いとき……」等々、学生の反応はこちらの期待するところとは少しずれるが、掲示に関心を持っていたことが救いだった。

「創立記念日がただの休日だけでいいのかしら」と学長からの問いかけで始めた「創立記念日を迎えるために」。次回は是非、学生と共に本学の存在意義について語り合い、(大袈裟な、との声が聞こえそう)それを創立記念の大切な部分として、続けられたら素晴らしい結果につながるのでは、(嫌でも実行するには言ってしまうしかない)と次年度の楽しみとして構想を温めている。乞うご期待。



学生の活動

第1回体育祭を通して

看護学科2年 木村 志乃

天使大学としての第1回目の体育祭の実行委員長になったことを、初めにこの場を借りて、皆さんに感謝したいと思います。

私は、昨年度の球技中心の体育大会に参加した時、もっと多くの学生が参加できて、楽しめるようになったらなあ、という思いを強く抱きました。その思いだけを胸に、今年の体育祭へと臨み、そしてその思いは、実行委員のみんなと先生方にも伝えることができました。できるだけ多数参加で



体育祭へと臨み、そしてその思いは、実行委員のみんなと先生方にも伝えることができました。できるだけ多数参加で

きる競技、競技以外での楽しみを計画し、実施に至るまで本当にたくさんの方々のご協力をいただきました。

体育祭当日は、競技の同時進行もあったせいか、慌ただしい時間が流れました。それでも、みんながスポーツに打ち込んでいる姿を見るとなぜか気持ちが軽くなっていました。しかし、ほっと胸をなでおろす間もなく、大きな問題がおきました。それは新しくチャレンジした騎馬戦の危険性からくるものでした。騎馬戦は、計画の段階で不安の声がすでにあがっており、ルールの確立が重要視されていましたが、実際に競技を行った時の危険性を考えると、そのルールは不十分なものだったと思います。このことで、競技中に多くの意見を受け、中断という形をとらざるを得ませんでした。ルールを改めて再スタートすることへの不満の声はたくさんありました。責任を感じるあまり、私には頭を下げることしかできませんでした。そんな状況でも、再び競技に参加して汗と涙を流していたみんなの姿を見て、私も涙があふれそうになりました。すべての競技が終わった時は、全く不満の声は耳に入ってくることはなく、むしろ励ましの声ばかりをいただきました。皆さんと共に競技に参加し、運営できたことを本当にうれしく思います。閉会式の時、ステージから見た皆さんの姿と大きな拍手は一生忘れません。本当にどうもありがとうございました。

第48回天使祭

学生課主幹 安田 トモ子

第48回を迎えた天使祭は11月2日・3日に行われた。今年は学生の取り組みが早く始まり「大学となって2年目ともなるとさすが、頼もしい!」と感じた。

広報係の学生がまずポスターを作製した。男女の顔をデザインし中央に「共学になりました」とのキャッチフレーズを入れ、今年度、初めて男子学生が入学し、女子短大から男女共学の大学になったことをアピールしたいとの思いがこもったものができあがった。次に、パンフレットについては、昨年度までのような手作りではなく、本物の印刷で作りたいとの希望で、夏休み前から広告取りを始めた。なかなか要領がわからず苦労していたが、結果的にはたくさんの広告主に恵まれ立派なパンフレットが出来上がった。

初めて北海道地区大学祭連合に加盟し、他大学と情報交換をしていた。学生玄関をバルーンアートで飾るため、他大学学生の協力を得て完成させた。

イベントは多彩な内容だった。例年のスタンドセロファン・カラオケ・お菓子コンテスト・健康相談に加え、新しく「ビストロ天使」という名の料理コンクールやストリートミ

ュージシャンの演奏、教職員のメイクアップコンテストなど楽しい企画もあった。地域との関わり持つ参加型のイベントをしたいとの意向で、クリスマスリース作り、キャンドル作りなども好評だった。天使幼稚園の園児が描いた絵の展示、本学の経営母体であった「マリアの宣教者フランシスコ修道会」の活動を知る展示、講義の中で作った作品の展示など盛りだくさんだった。

実行委員会は男子学生も加わり活発な活動となった。毎日、守衛さんに苦言を頂きながらも夜遅くまで頑張っていた。それぞれに達成感を味わったようだ。

思い出に残る行事となるよう、学生の自主的な動きを見守りつつ、時には叱咤激励し、共に走り、共に楽しんだ天使祭だった。



天使祭を終えて

看護学科1年 野田 由紀

私は今回の天使祭で、華の会役員として、企画や運営の仕事を担当しました。今回の天使祭では今までとはまったく違った新しい取り組みをしようということと、天使らしさを出すということで、イベント等も全てゼロからのスタートでし

た。それだけに、大変なことも多く、途中でやめなくなったことも(多少)ありましたが、まわりの役員、実行委員や先生方に支えられて大成功に終わったと思います。それに加え、



天使祭後に行った、学生対象のアンケートでも、「今回の天使祭は楽しかった。」という声が多く聞かれ、やって良かった、と思います。

ただ、今回天使祭を運営してみて、学生と執行部の間に意識のズレのようなものを感じました。次回の天使祭には、さらに学生数も増え、盛り上がると思うので、学生の皆さんにはぜひ受け身的に楽しむのではなく、主体的に参加し、楽しんでもらいたいです。執行部もさらに盛り上がる天使祭をめざします。学生全体がひとつになってこれからの天使祭を盛り上げていきましょう！

天使祭が終わり、次回の天使祭まで少しゆっくりできるかと、のほほんと構えていたところへ、次回の天使祭が6月頃にあるという噂を小耳にはさみ、先生に伺ったところ、「そ

うよ」の一言。あんなに大変だったのに……と、達成感をかみしめる間もなく、気持ちはどんどん

天使祭前まで引き戻されていきました。「でも間が開かないから2回分の達成感を感じられて得！」と思い込むようにしています。今回の反省点や教訓を次回の天使祭に活かし、さらに充実した天使祭をめざします。



大学に入学して初めての大学祭

看護学科1年 志津 麻奈美

2つの学科から成る大学。高校の時よりも少ないクラス。この中で初めての大学祭がどういったものになるのか全く見当もつかず、戸惑いの連続でした。そんな中私は模擬店のリーダーという大役を担ってしまい、みんなを困らせてしまったのでは？と思いました。大学ともなると、私を含めてかなり多くの人がバイトをして、サークルに入って、部活をして…と忙しい毎日を送っているの、話し合いには苦労したのも本音です。しかし、だんだん日が近くなるにつれてみんなが参加し、協力してくれるようになり、模擬店に割りあてていない人達も手伝ってくれた時には、ホントに天使のみんなは心に暖かいものを持っているのだと実感しました。前日もみんなで考えて作業を進めてくれて、こういう結束力はやっぱり看護だなと思いました。当日は朝早くから準備に取り掛かり、みんなで協力してお好み焼きを作る事が出来たのでよかったと思います。また、華の会の人達が何ヶ月もかけて頑張ってくれたのがよく伝わる天使祭でし

た。もちろんクラスの中でぶつかり合った事もありました。その時に気付いたのは相手の意見を聞く事の大切さでした。初めに自分の意見ばかり主張してしまった事は今振り返っても反省しています。しかし、こういう行事は普段あまり話さない人達と交流を持つきっかけにもなるので、私は好きです。こうして輪を広げ、卒業する頃には何か大きな物が築き上げられるとよいと思います。

去年はひたすらお好み焼きを焼いていたので、今年の天使祭では模擬店をたくさん回り、体育館行事にもたくさん参加したいと思っています。もちろんクラスの事も頑張りますが(?)v それから…今年の天使祭で忘れてはいけないのがステ

ージ発表～(≧▽≦) 軽音の発表があるので、みなさんぜひぜひ見に来て下さい！頑張ります！！



学生サークル紹介

クラシックバレエとの出会い

栄養学科1年 佐藤 龍二

男子である私が何故バレエ部(ラ・シルフィード)で活動しているのか？と、皆さんは思うかもしれません。特別な理由はなく、単にバレエに魅力を感じたからにほかなりません。

初めはただ体を柔らかくしたいという一心で入部しました。しかし、驚いたことにバレエ部だというのにストレッチを行うというのみで、プリエから始まる基礎やステップを全くしていないという実態でした。そんな状態が約1ヶ月続いたある日のこと、バレエ教室の先生と連絡をとることができ、レッスンの風景を見せていただく機会を得ました。先生の踊る姿には優雅さと気品があふれていました。そして、この日を境に、バレエ部としてのレッスンが開始したとともに、私のバレエに対する気持ちや考え方が大きく変化しました。

それからは、毎週火曜日の放課後、体育館(冬は音楽室)

でバーと鏡を使いバレエ教室の先生に90分間みっちりレッスンをしていただいています。最初は、バーレッスンを基本としての姿勢を正すことや体の柔軟性を高めることが主で、とくに前者については体を上下に伸ばし背骨を真っ直ぐにするため、腹筋や背筋を頻繁に使います。それを基本的に90分間続けるのが原則なので、額や脇から汗が出る立派な全身運動になります。慣れないうちは(今でも難しいですが)、つらいです。しかし、時間が経つにつれて、柔軟性は増し、姿勢が良くなり、しかも体型が引き締まってくるのが実感できるようになってきています。また、レッスンの90分間がずっとつらいわけではなく、所々に笑いもあるために、緊張感や集中力のめりはりのある楽しい時間を過ごしています。

現在、部員は顧問を含め5人で、毎週難易度が上がるレッスンに悪戦苦闘しています。とはいえ高校の部活動とは違い、気楽に活動しています。発表会に出るというような予定はありませんが、今後は少しずつメンバーを増やし、さらに活発なバレエ部を築いていきたいと考えています。(なお、レオタード姿なので写真はお見せできません。あしからず。)

管理栄養士国家試験合格者、 全国で第3位

栄養学科長 山本 愛子

平成13年度管理栄養士国家試験合格者数は、栄養士養成施設のある全国の短期大学164校中、本学は第3位という高順位でした。この結果は合格者本人のたゆまぬ努力の賜物と思います。一方、本学栄養学科といたしましても実践の場に即対応できる人材の育成をめざして、カリキュラムの検討や教育内容充実に向けて全力を挙げているところです。また、短大卒業後は2年間の実務経験を経て国家試験の受験資格が得られることから、毎年希望者に対する管理栄養士国家試験における主要科目の特別講習会を実施し、受講生からの高い評価を得ています。ちなみにここ数年では平成9年度の全国2位(79人)を筆頭に、全国10位以内を維持しています。

管理栄養士の資格は、昨年、栄養士法の一部を改正する法律が公布され、今年4月1日に施行される法改正に伴い、登録制から免許制となります。それに伴い、従来の管理栄養士が行う「複雑又は困難な業務」の位置づけから、「傷病者に

対する療養のために必要な栄養の指導」等の栄養に関する指導の業務に改正されました。管理栄養士にとっては大きなよろこびであると同時に、以前にも増して責務の重さを感じる場所でもありますし、養成校としてもあらゆる場を想定し、最大限の努力が求められ、それらにこたえていかなければならないと痛感しているところです。

今回の法改正に伴い、栄養士、管理栄養士養成課程のカリキュラムが改正され、今年4月から実施されます。特に、管理栄養士の専門性を高めることをねらいとして臨床栄養学分野の充実がはかられ、また臨地実習の単位も従来より増加し、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門知識、技術が求められています。

本学では、平成12年度4月に、2年制の短期大学から4年制の管理栄養士養成施設校の大学として順調に歩みだしておりますが、平成16年度には第一期卒業生が社会に巣立ち、4年制の管理栄養士課程での国家試験を受験することになります。したがって、栄養学科としても100%の合格率をめざして、カリキュラムおよび教育内容のさらなる充実をはかり、学生自身が主体的に取り組み効果をあげられるように、また、優れた実践活動ができる専門職業人の育成に努めているところです。

活躍する卒業生 表彰を受けました

敬称略

厚生労働大臣賞

札幌北クリニック

佐藤 妙子(栄養科7回生)

厚生労働大臣賞

天使大学

小林 良子(栄養学科18回生)

文部科学大臣賞

札幌市教育委員会

菅原千鶴子(栄養学科18回生)

北海道知事北海道社会貢献賞

北海道社会保険病院

相馬 愛子(栄養学科18回生)

北海道教育委員会北海道学校給食功績者

岩見沢市立学校給食共同調理所 佐藤 孝子(栄養科12回生)

平成14年度入試の現況

栄養学科教授 荒川 義人

本学の入学試験は、昨年11月17日に実施された推薦・社会人入学試験を皮切りに、新年の幕開けとともに、大学入試センター試験利用入試、一般入試と本格化し、2月18日に行われたセンター試験利用入試の面接試験をもって全日程が終了いたしました。全国的に大学入学志願者数の減少がいわれる中、本年度全入試の志願者総数が、学部全体で昨年度を15%ほど上回ったことは特筆に値することですが、一方で、定員枠の制限から合格されなかった受験生の数も必然的に増加しており、あらためて入試制度の重みを痛感する次第です(表参照)。なお、入学試験の詳細な結果につきましては、新年度になってから報告させていただきます。

これとは別に、昨年12月15日、大学開設後初めての編入学試験が実施されました。大学がスタートした当初から、編入学試験科目、編入学生の教育課程、単位認定規則など、諸課題について長時間の議論を重ね、ようやくたどり着いた試験でした。本年度は定員の関係から、看護学科のみの試験となりましたが、現場での実務経験豊かな8名の志願者があり、2名が合格。本学初の編入学生として新年度から学ばれるこ

とになりました。

一方、短大専攻科の入試は、昨年11月22日の推薦入試、本年1月30日の一般入試で、最後の入学生を迎えることになりました。相変わらずの高い倍率の中、本年度の入試を突破して入学される方々には、これまで以上の大きな期待がかかることと思います。

全入学試験の合格者から、最終的な入学者が決定するのは3月下旬です。一応、その時点で平成14年度の入試業務が完了することになりますが、実は、同時に平成15年度入試に向けての準備が始まります。本学に相応しい入学者決定に向けて、新たな検討、業務が遂行されようとしているのです。

(入試委員長)

表 2002年度天使大学入学試験志願者数

学科	推薦入試	一般入試	センター利用入試	合計
看護	86 (99)	378 (314)	138 (144)	602 (576)
栄養	74 (65)	165 (144)	105 (61)	344 (273)
合計	160 (164)	543 (458)	243 (205)	946 (849)

() 内は2001年度のもの。社会人入試については別数。

エジプト看護教育コースに関わって

看護学科教授 沢 禮子

日本国際協力団（JICA）から実施機関の要請を受け、本学は、2001年10月9日～12月21日までの間、国別特設「エジプト看護教育」コースを開講しました。

研修は、エジプト各県の看護研究センター（N. T. C.）長、ならびに各県レベルの看護婦の卒後教育にあたる臨床看護指導者に必要な知識技術の習得を内容とするものであり、講義、視察、実習、文献および討議などを基に自己研修し、帰国後の活動を策定しました。看護学士を有する看護部長、婦長級（年齢34～36歳）の選抜された6名の研修生を迎えましたが、明朗活発な、指導者としての可能性を秘めた研修生でした。

研修生たちは、日本語の「はじめまして」「ありがとうございます」「よろしくお願いします」などを学び、研修担当講師や関係者など出会う人々に笑顔で挨拶を交わし、あらゆることに関心をもち、旺盛な意欲で研修にのぞみ、周囲の者

たちが敬服するほどでした。研修中の彼女たちは常時アラブ語を使用して生活していましたが、英語が使用される講義や討議、発表などには苦勞しながらも果敢に努力して挑戦し、参加していました。研修生のうち5名はイスラム教徒で、毎日の祈りや食生活を厳守されている姿も印象的でした。「来日の印象は？」の問いに、何ととっても初めての体験である「雪」を挙げていました。雪で滑らないための冬靴を三足も購入したこと、雪道で7回も転んだけれども骨折はなかったことなど、「雪」をめぐる忘れ得ぬ思い出が語られていました。

研修を終えた6人は、共に研修が期待していた以上に実り多いものであったと評価し、関係者に対する心からの謝意を表し、閉講式を迎えました。思いがけずこの機会を与えられた私も、エジプトの文化や医療福祉事情などを交流の中で学ぶことができました。多くの関係者の方々のご協力に深く感謝しています。



学生の社会活動

優秀賞を受賞 牛乳料理コンテスト

栄養学科1年 中川 香麦

昨年9月19日、牛乳料理コンテストが道庁で開催された。なぜか私はそのコンテストに参加することになったが、その日の朝はひどくユウウツだったのを覚えている。天候はとても良かったが、私の気分は大雨だった。なぜかという、私の考えた料理「夏の冬至」という作品は今まで一度も成功したことがなく、前の日に試みに作ったものは、成功どころか大失敗だったのだ。私の考えた牛乳料理とは、普通の串だんごの周りを牛乳寒天で固め、その上にあずきとかぼちゃをのせるといった至極簡単な料理である。そして想像上の食べものなのでおいしいかどうかなど知る由もなく、それでも慎重な私は、家や学校で人の手を借りて作ってみた。完成した作品はどれもいまいち。レシピの訂正を何度か行い、家族、友人、先生、バイト先のおばちゃんetc.……にアドバイスをいただき知恵を拝借して、最初よりはかなり良くなってきた私

の作品はもはや「みんなの作品」となっていた。しかし本番で作るのは私一人。時間制限は1時間。私は前日に時間を計りながら一人で作を試みた。しかし、寒天は1時間経っても2時間経っても固まることはなかった。

以上のことから、当日、私はいつになくブルーであった。家を出る時、親に「恥をかいてくるから」と言っておけばよかったと思いながら、私は調理場に立った。しかし、あれだけ周りの人たちに迷惑をかけたのだから「少しは真剣にならないとマズイだろう……」と思い、今まで作った中でいちばん一生懸命に作ってみた。今思えば初めから一生懸命にやっていたら、あの日の朝、あそこまで沈んでいなかっただろうと思うが、悪く言えば、とことん追い詰められないと取り組まないということなのだろうし、良く言えば、自分で言うのもなんであるが本番に強いということなのだろう。私は周りの様子を伺う余裕を持ちながら手を動かした。今までにない冷静さに自分でも驚きながら、時間内になんとか完成させることができた。これまで作った中でいちばん上手に作ることができて、恥をかかなくて良かったと内心ホッとした。

頑張った甲斐があって、みごとに「優秀賞」を受賞。その日いちばんの驚きであったのは言うまでもなく、そして同時に、この料理は二度と作りたくないと思ってしまったのでした。

クリスマスの集い

栄養学科講師 山部 秀子

12月はじめ、「きよしこの夜」の歌そのままの「♪救いの御母は御母の胸に♪」の聖家族が校舎2号館入り口付近に飾られます。天使大学のクリスマスイベントの始まりです。

本学はキリスト教の精神を教育の基本としています。ですからキリスト教の行事を、とても大切にしています。新学期が始まる時はイースター、卒業の頃は感謝のミサ。その中でもクリスマスはイエス・キリストの誕生日としてみんなで喜びたい日なのです。

「クリスマスの集い」は学生会も企画に加わり、1週間前

から休み時間にクリスマスにちなんだ音楽を流したり、ケーキを焼いたりします。

当日は、学生だけでなく、教職員全員が集まり、クリスマスのお話を聞いて、キャンドルサービスや乾杯をします。キャンドルサービスでは、たった一つの小さな灯火が会場全体に広がっていく光景は、まるで一人ひとりの心がつながっていくかのようです。小さな大学ですから、クラスの結びつきが強く行事はいつも家族的な雰囲気でおこなわれます。

商業ベースでない、本物のクリスマスを祝っています。

（栄養学科2年担任）



平成12年度決算 (平成12年4月1日から平成13年3月31日まで)

天使大学・比較資金収支計算書 (決算額)

(単位:千円)

収 入 科 目	平成11年度	平成12年度	対前年度増減	支 出 科 目	平成11年度	平成12年度	対前年度増減
学生生徒等納付金収入	457,210	551,226	94,016	人 件 費 支 出	394,563	544,638	150,075
手数料収入	23,485	27,886	4,401	教 育 研 究 費 支 出	69,600	109,818	40,218
寄附金収入	28,395	11,138	△17,257	管 理 経 費 支 出	73,677	50,014	△23,663
補助金収入	104,609	84,335	△20,274	借入金等返済支出	10,000	10,000	0
資産運用収入	9,150	5,233	△3,917	設備関係支出	638,532	16,751	△621,781
資産売却収入	0	204,000	204,000	施設関係支出	77,963	38,868	△39,095
事業収入	880	2,447	1,567	資産運用支出	204,000	0	△204,000
雑収入	12,866	40,007	27,141	その他の支出	8,072	15,039	6,967
受取利息	314,945	375,531	60,586				
その他の収入	533,039	21,869	△511,170	資金支出調整勘定	△12,159	△7,279	4,880
資金収入調整勘定	△269,225	△347,253	△78,028	次年度繰越支払資金	591,222	789,792	198,570
前年度繰越支払資金	840,116	591,222	△248,894				
収入の部 合 計	2,055,470	1,567,641	△487,829	支出の部 合 計	2,055,470	1,567,641	△487,829

天使大学・比較消費収支計算書 (決算額)

(単位:千円)

収 入 科 目	平成11年度	平成12年度	対前年度増減	支 出 科 目	平成11年度	平成12年度	対前年度増減
学生生徒等納付金	457,210	551,226	94,016	人 件 費	405,253	556,841	151,588
手数料	23,485	27,886	4,401	(内退職給与引当金)	(10,769)	(41,408)	(30,639)
寄附金	31,691	14,549	△17,142	教 育 研 究 費	99,976	160,286	60,310
補助金	104,609	84,335	△20,274	(内減価償却額)	(30,376)	(50,468)	(20,092)
資産運用収入	9,150	5,234	△3,916	管 理 経 費	75,667	53,277	△22,390
事業収入	880	2,447	1,567	(内減価償却額)	(1,990)	(3,263)	(1,273)
雑収入	12,866	40,007	27,141				
属収入合計	639,891	725,684	85,793	消費支出の部 合 計	580,896	770,404	189,508
基本金繰入額合計	△174,960	△81,471	93,489	消費収支差額	△115,965	△126,191	△10,226
消費収入の部 合 計	464,931	644,213	179,282				

2001年度在籍者数 (2002年3月10日現在)

学 科	人 数
大 学	
看護学科	1年 89
	2年 86
栄養学科	1年 102
	2年 94
短期大学	
専攻科	20
衛生看護学科	3年 57

お知らせ

第3回天使大学公開講座

下記のテーマ・日程で2002年度公開講座の開催(全5回)を予定しています。

詳しくは、天使大学公開講座委員会までお問い合わせください。

テ ー マ 「命みつめて—中高年は、いま」

日 程	6月29日(土)	基調講演「中高年の精神衛生」(仮題)
	7月4日(木)	「労働環境の現状」(仮題)
	7月11日(木)	「中高年の精神的危機」(仮題)
	7月18日(木)	「食は生きる原点」(仮題)
	7月25日(木)	シンポジウム「暮らしを見つめなおす」(仮題)

開催場所 天使大学

募集人数 100人

参加費 2000円

そ の 他 2002年度公開講座より「道民カレッジ」(主催:北海道教育委員会・北海道生涯学習推進センター)連携講座として登録の予定です。

問い合わせ 天使大学 (011) 741-1051(代)

図書館からの新情報

図書課長 山本 敏子

図書館は、こんなに使いやすくなります。

昨年夏から検討を重ねてきた電算化システムへの更新が承認され、4月中旬の稼働に向けて着々と準備を進めております。

*貸出・返却はすべてコンピュータで処理され、蔵書の検索も閉館まで利用することができます。

*5月中旬以降の日曜日(祝日および学生休業期間を除く)も、10時～17時まで開館の予定です。もちろん土曜日も今まで通り開館します。

*本学学生教職員の他に次の方々が利用できます。

- ① 本学の卒業生
- ② 天使病院職員
- ③ 看護師、保健師、助産師
- ④ 栄養士、管理栄養士

*利用時間: 9時～17時(月～金)

10時～17時(土・日)

*利用内容: 閲覧、複写、所蔵調査のみ

*利用手続: 正面玄関で身分証明書等を提示し、入館の際、カウンターで氏名等記入。

以上、本学図書館の貴重な専門書、文献を一人でも多くの方々に利用していただきたくお待ちしております。

編集後記

大学としての産声をあげて2年が過ぎようとしています。よちよち歩きから、しっかりと立ち、ときに目的を定めて何かをしようと働きかけるために走りだすといった成長の上に、更なる力づよい歩みを重ね続けていく学報でありたいと思います。

振り返り思えば、初めての学報発行以来、編集と印刷でお世話になっている須田製版さんには、入稿～校了の過程はもちろんのこと、折りにふれアドバイスをいただくなど心より感謝しております。ここに記してお礼申し上げます。

次号(9月発行)では、完成した7号館についての特集や新しい企画を予定しております。学報へのご意見・ご要望など読者諸氏からの声をお寄せください。

(広報委員会 山部・青木)